

## 《アキレウスとアイアスの将棋対決を表す群像彫刻》について

## — 将棋の同時代的意義とアクロポリスの奉納文化に基づく奉納理由の分析 —

こまつ まこと  
小松 誠 (筑波大学)

## 発表要旨

9  
時  
20  
分  
—  
10  
時松ヶ崎・東キャンパス内  
60周年記念館  
1F記念ホール

古代ギリシアの都市国家アテナイのアクロポリスは、女神アテナの中心的聖域であった。そこにアテナイ人は神々のために壮麗な宗教建築物を建立し、無数の捧げ物を設置した。この丘からは大理石の《アキレウスとアイアスの将棋場面を表す群像彫刻》(アクロポリス美術館)が出土しており、それらは紀元前510年から500年頃に年代づけられている。

先行研究では、この群像彫刻の主題および像容について議論されてきた。H. Schrader は1909年にこの群像彫刻の主題は英雄アキレウスとアイアスの将棋対決であると主張した。爾来、この説が一般的に支持される。K. Schefold や H. Mommsen らは、この奉納物の姿がアテナイで制作された複数の陶器に描かれていたと論じる。また、J. Franssen は奉納者がこの群像彫刻で自らが貴族階級に属することを示そうとしていたと考察する。

前6世紀から5世紀のアテナイにおいて、将棋は文献と美術作品の分析から、トロヤ戦争の英雄たちや貴族と平民の別を問わずアテナイ人の戦地での娯楽、そして死の運命の暗示と認識されていたと考えられる。

また、将棋を指すアキレウスはギリシア随一の英雄であり、アイアスは彼に次ぐ英雄であった。それ故に、彼らはギリシア人戦士の美德(アレテー)を象徴する代表的英雄と言えよう。

アクロポリスに設置された奉納彫像に目を移すと、前480年から前460年頃の間には競技大会の優勝者の肖像彫刻と並んで、こうした戦場における兵士の美德に言及する肖像彫刻が少なくとも二点は設置されていたことがわかる。一つ目は、貴族ムネソンの息子グナティオスとトラシュロス奉納の彫像(IG I<sup>3</sup> 833)である。二つ目は、ヘゲロコスのブロンズ彫像(IG I<sup>3</sup> 850)である。いずれも重装歩兵の姿をした奉納者もしくはその親族が表されていたと考えられている。台座に刻まれた碑文から、彫像が奉納者とその一族の戦闘参加、軍功、そして一族の美德(アレテー)を記念していることがわかる。

これまでの分析を踏まえて、この発表の結論として発表者は次の点を挙げたい。つまり、《アキレウスとアイアスの将棋対決を表す群像彫刻》の奉納理由は、貴族的出自を持つか否かに関係なく奉納者が自身または自らの親族が戦闘に参加したこと及び戦場において活躍できたことを記念することであったのではないかということである。また、この群像彫刻においてアキレウスは奉納者の代理表象であったと考えられるため、この両英雄の将棋対決を主題とする群像彫刻はアクロポリスにおける神話上の他の英雄を表す群像彫刻と肖像彫刻という二つのコンテクストを踏まえることで、より重層的に捉え直すことができると考える。